

**輸血部ニュース**

広島大学医学部附属病院輸血部

発行：高田 昇

編集：藤井輝久

No.31 2001年3月19日 TEL: 082-257-5580,5582 内線：2940,2942

FAX: 082-257-5584

**ご存じですか？ 輸血同意書の運用について**

1997年4月の「保健医療機関及び保険医療養担当規則」改正で、輸血療法に関して、文書による説明と同意が実施されなければ保険請求ができないことになりました。また同年12月の「医療法」改正では、医療を提供する者の輸血に関する説明が義務化されました。

それを受けて本院の輸血療法同意書は1998年1月に大幅に改変され、複写式の4枚綴りとなりました。1枚目は《患者さん保管用》、2枚目は《輸血部提出用》、3枚目は《医事課保管用》、4枚目は《カルテ保管用》となっています。そしてその運用については、以下の通りとなっています。

- ・ 患者さんまたはその家族に対し輸血療法に同意が得られた際には、『輸血療法同意書』にご署名頂く。
- ・ 4枚複写のうち1枚《患者さん保管用》を患者さんへお渡しし、1枚《カルテ保管用》をカルテに保管。
- ・ 輸血部に残りの2枚を提出（輸血血液請求書提出時でもよい）。輸血療法施行時に、1枚《医事課保管用》を医事課へ輸血部から提出。

しかしこの同意書が輸血部に提出され

ていないケースが頻発しています。

「カルテには同意の有無は記載してある」「同意書はカルテに綴じてある」では、輸血部、医事課共に「患者が輸血療法に同意」を確認せず保険請求をしてしまうこととなります。しかしこれは厳密には不正請求と言われても仕方ありません。

「緊急時で同意書を取る時間がなかった」といった事態も起こるかも知れません。本院の「輸血療法同意書」は、そのような場合にも対応しています。緊急時には〔輸血同意書が得られない理由〕の欄にチェックして提出して下さい。

各臨床の先生方には輸血同意書に関する運用をよくご了解の上、『輸血療法同意書』の提出を徹底して頂くようお願いします。



また提出された同意書に不備がありましたら、同意書として認められません。そのため不備が目立つもの（例：同意日の記入がない、本人の署名がない、チェックボックスがチェックされていない、など）に関しては、書き直しをお願いすることがあります。是非ご協力頂きますようお願いいたします。

輸血副作用・合併症 2

《この記事に関する要約》

- 輸血同意書の 2 枚目、3 枚目は輸血施行前に輸血部に提出。
- 緊急で同意が得られないままやむを得ず輸血した場合にも、理由を記して同意書を提出
- 同意書の不備がある場合は書き直しをお願い

## 発熱、過敏反応、アレルギー

輸血に際しては種々の副作用・合併症を引き起こすことがあります。輸血部ニュースでは前号に引き続き輸血に伴う副作用をご紹介します。既に成書等でご存じの方も多いと思いますが、復習の意味でお読み頂ければ幸いです。

輸血に伴う副作用・合併症を表にまとめますと以下の通りとなります。ここでは特に重大な問題である 2.の発熱、過敏反応、アレルギー・アナフィラキシーショックについて述べます。

《表 1：輸血に伴う副作用・合併症》

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不適合輸血副作用（異型輸血、遅発性溶血性輸血副作用など）</li> <li>2. 発熱、過敏反応、アレルギー/アナフィラキシーショック</li> <li>3. GVHD</li> <li>4. 輸血後感染症（HCV、HBV、HIV、ATL、CMV、梅毒など）</li> <li>5. 大量輸血に伴う合併症（高 K 血症、クエン酸中毒、希釈性凝固障害など）</li> <li>6. 輸血手技が関係する合併症（空気塞栓、微小凝集塊による循環障害など）</li> </ol> |
|--|

**A. 発熱**

原因として、輸血製剤に混入している細菌、ウイルス以外に、抗白血球抗体や保存中の白血球が産生したサイトカインによるものがあります。多くの場合輸血開始後 30 分以内に起こりますが、解熱剤の投与等で対処可能です。

**B. 過敏反応**

輸血によってじん麻疹、皮膚掻痒、輸

注部局所の浮腫を起こすこともよくあります。軽微なものは輸血を中止するのみで軽快しますが、必要に応じて抗ヒスタミン剤、副腎ステロイド剤の投与を行います。

**C. アレルギー/アナフィラキシーショック**

一般的なアナフィラキシー様症状の診断基準を次ページ表 2 に示します。

## 《表2》アナフィラキシー様症状の診断基準

1. 呼吸困難、全身紅潮、血管浮腫、じん麻疹のうち、複数が併せて発現した場合
2. アレルギー性と考えられる急性で重篤な呼吸困難を認めた場合

\*上記の症状に血圧低下、ショックが加わった場合アナフィラキシー様ショックと診断  
 \*特異抗原と特異的IgE抗体が証明されている場合には、アナフィラキシー症状といい、証明されていない場合にはアナフィラキシー様症状という

治療については成書をご覧ください。ほとんどが輸血施行中に起きますが、その際対処が遅れると死亡する可能性があります。ICUに連絡して対処して頂くことも必要かも知れません。

原因についてはまだ十分に解明されていません。しかし血漿成分による同種抗体の存在が考えられています。これはIgA欠損症でIgAに対する同種抗体を有してしまった患者に、IgAを含んだ血漿成分を輸血するとアナフィラキシー様症状が起こることから考えられた仮説です。明らかに証明された例はほとんどありません。

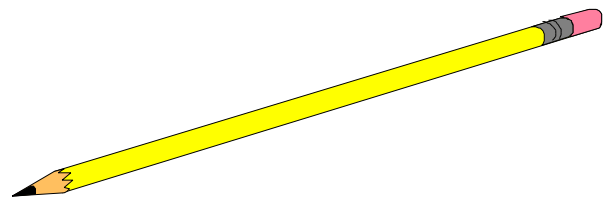
その他白血球除去フィルターの使用によるアナフィラキシー様症状の報告もありますが、因果関係が証明された例はありません。

このような副作用が出現しましたら、

輸血部に副作用報告を行っていただくようお願いいたします（輸血副作用/有害事象のフローチャート A4 版カラーポスターもご参照下さい）。

## 《この記事に関する要約》

- ・ 輸血に関する副作用について、発熱、アレルギー等について解説
- ・ 輸血の即時型反応として、アナフィラキシーは非常に重要
- ・ アナフィラキシーショックが起きた時、対処が遅れると死亡する可能性あり
- ・ アナフィラキシーの原因の特定は分かっていないものが多い



## 輸血部からのお知らせ

輸血に関する時間外のお問い合わせ先として、助手藤井医師のポケットベル番号が変更となりました。宜しくお願いします。

新番号：586-8513（メッセージ(外線電話番号)を必ず入力して下さい。）

## 《ご意見、ご質問は》

輸血部 内線 2942、

または 2945